

3年 総合的な学習の時間

「拝志っ子ふれあい隊」

～みんなとつながろう～

目標

福祉や福祉に関わる仕事をしている方の話を聞き、いろいろな人とよりよく関わる活動を通して「福祉」について考えを深め、みんなが幸せに住める地域になるために自分たちができることを考える。

福祉について学ぼう

東温市社会福祉協議会の方に話を聞こう。



福祉とは、
ふ…ふだんの
く…くらしの
し…しあわせ
であり、
地域の中で、**みんな**が幸せに
くらせるようにすること

障がいについて学ぼう

車椅子について知ろう。



車椅子を利用している方

- ・歩行が困難な方
- ・けがをした方・高齢者
- ・病気や障がいのある方

車椅子で介助をするときに大切なこと

「ゆっくり」 「声掛け」
「ブレーキ」

障がいについて学ぼう

車椅子を利用している方への介助の仕方を知ろう。



段差があるときには、
前輪を持ち上げる前に
声を掛けよう。



下り坂ではゆっくり
動かしてもらえると
安心できるな。

障がいについて学ぼう

車椅子を製造している方の思いを知ろう。



ベッドに近づけて
乗り降りできるのが
すごいな。



乗っている人にも、
介助している人にも優しい
車椅子だな。

障がいについて学ぼう

視力の弱い方への介助の仕方を知ろう。



掴んでもらった手がはずれない
速さで進むことが大事だな。



段差があるときには、
声を掛けて、手前で一度
止まろう。

障がいについて学ぼう

聴力の弱い方への介助の仕方を知ろう。



聴力の弱い方と
コミュニケーションを取る方法は、
たくさんあるな。



表情や身振り手振りに気を付け
ながら、コミュニケーションを
取ろう。

高齢者について学ぼう

高齢者への介助の仕方を知ろう。



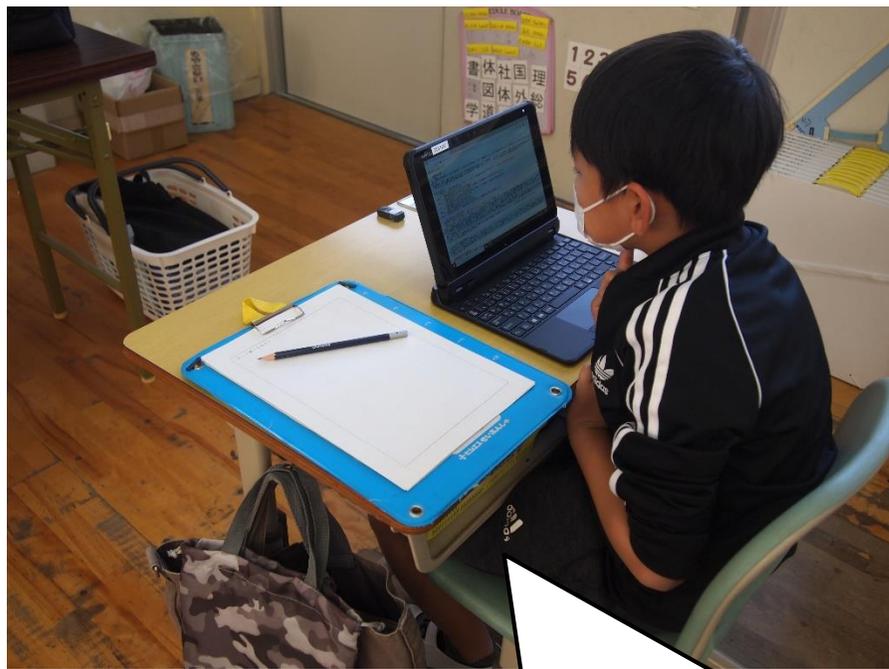
段のあるところは、
自分が前を歩いて安全を確かめて
おくと高齢者が安心できるかな。



見えづらかったり、掴みにくかっ
たりするので、折り紙を折るのも
大変だな。

学んだことをまとめよう

タブレットを使って、調べたりまとめたりしよう。



視力の弱い方が使う点字というものがあるんだな。



ぼくは、困っている人がいたら声を掛けよう。

学んだことをまとめよう

児童のまとめたもの



視力の弱い方は、白杖という道具を使っている。
白杖は、足元を確かめるために使っている。
白杖を、使っている人は、つきそいの人と一緒に、行動することが多い。
つきそいの方は、声かけが大切である。
白杖を使っている人は、点字ブロックを頼りに前に進んでいる。
私は、白杖を使っている人と会ったら声掛けを大切にしたいと思いました。



聴力の弱い人は、空書、手話、身ぶりなどで伝えることができるそうです。
聞こえ方も様々で、全く聞こえない人、少し聞こえる人がいます。
僕も実際に体験すると、ちょっとしか聞こえなかったのが、びっくりしました。
その後に、相手の口の動きで言葉を理解しようとしたら、全く分かりませんでした。
でも、ジェスチャーがあると分かりました。聴力の弱い人は、目がとても役に立つそうです。
僕は、聴力の弱い人はこんな生活を送っているんだなと、思いました。
僕は、聴力の弱い人に会ったら、「お手伝いできることは、ありますか。」と紙に書くか、分かりやすいジェスチャーをしながら気持ちを伝えたいです。

成果

- 社会福祉協議会と連携することで、介助の仕方など知識を得ることができた。
- 直接手助けする以外にも、間接的に手助けする方法があることを知り、車椅子を利用していた友達にその場に応じた手助けができるようになった。
- 福祉機器製造会社を訪問し、機器を見たり制作者の思いを聞いたりすることで、障がいのある方を支えている方の気持ちを知ることができた。

課題

- 特別支援学校や高齢者福祉施設への訪問が、できなかったため、学んだことを交流活動で実践することができなかった。
- 介助体験（疑似体験）の前に、障がいのある方の特性などについて調べる活動をもっと取り入れることで、体験をより生かすことができるようにする。
- 身体的な特徴の分かりにくい障がいのある方への関わり方にも触れていく必要を感じた。